

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第410号 平成19年2月



『東沢大橋』 笹本 隆夫

目 次

	頁		頁
1) 新春賀詞交歓会	総務部 … 2	8) 各部だより	
2) 専門医に学ぶ	清水マリ子 … 4	学術部インフォメーション	学術部 … 24
3) 感染症だより	西多摩保健所 … 6	広報部インフォメーション	広報部 … 26
4) 連載企画		9) 同好会短信	
「伊豆の細道・裏通り」	古川朋靖 … 7	ゴルフ部だより	田村啓彦 … 28
風に吹かれて	鹿児島武志 … 12	10) 地区だより	
5) 特別企画・追悼特集	石井好明 … 13	青梅地区 新年会	鹿児島武志 … 29
	道又正達 … 13	福生地区 新年会	河内泰彦 … 29
	坂本保己 … 17	11) 理事会報告	広報部 … 30
6) 病院だより		12) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 33
青梅市立総合病院・地域医療連携室	… 20	13) あとがき	馬場真澄 … 34
7) 伝言板	広報部 … 21	14) 表紙のことば	笹本隆夫 … 35
		15) お知らせ	事務局 … 35

西多摩医師会新春賀詞交歓会開催さる

平成19年1月20日(土)午後6時より恒例の西多摩医師会主催の新春賀詞交歓会が青梅福祉センター「ふよう」で開催された。

寒空の中、議員、市町村長、警察および消防署長、医療関係団体などのご来賓24名を招き、60余名の出席を得て開催された。例年に比べ医師会会員の参加が少ないようであった。真鍋会長が開会の挨拶をされた。日本医師会会長選の混乱や今年もおこなわれるであろう医療費改訂など厳しい時代が続くが、地道に医療活動を頑張ってもらいたいと述べられた。

次いで、来賓の代表として衆議院議員の井上信治議員が挨拶され、医療制度改悪の声を国政に反映させたいと述べられた。市町村代表として竹内俊夫市長が、自治体の財政窮迫

と医療費増大のなか、予防医療に力を注ぐと述べられた。その後、出席頂いた来賓の方々の紹介が行われた。続いて西多摩保健所長早川和男氏の音頭で乾杯を行い、歓談に移った。

今年の余興は「のだめカンタービレ」効果で静かなブームとなっているクラシック音楽を国立音楽大学演奏部による五重奏で演奏された。カノンの美しい音色を聞きながら、日頃お会いする機会の少ない議員、各首長の方々と和やかな歓談が続いた。

その後、恒例の福引きが行われ当選された先生方に賞品が手渡されたが、今年の当選者は皆医師会員であった。中締めは松原監事による手締めが行われ、小机副会長の閉会の挨拶で楽しい会は御開きとなった。

(文責：総務 鈴木道彦)





羽村・福生・青梅の各市長さん



いつも写真撮影をお願いしている宮下吉弘先生

専門医に学ぶ 第26回

問題

【症例】 2歳9ヵ月 男児

【主訴】 咳嗽、発熱、喘鳴、食欲低下

【家族歴】 特記事項なし

【既往歴】 2歳0ヵ月時にロタウイルス性腸炎・脱水症で入院

【現病歴】 平成18年12月20日より咳、鼻水あり

12月23日より39°C台の発熱あり。

12月25日に37°C台となるもなつたが痰がらみ咳嗽が出現し、当院小児科外来を受診。上気道炎の診断でペリアクチン、ビソルボン、ムコダイン、メブチン、ホクナリンテープの処方を受け帰宅したが、その夜は咳嗽のため睡眠出来なかった。

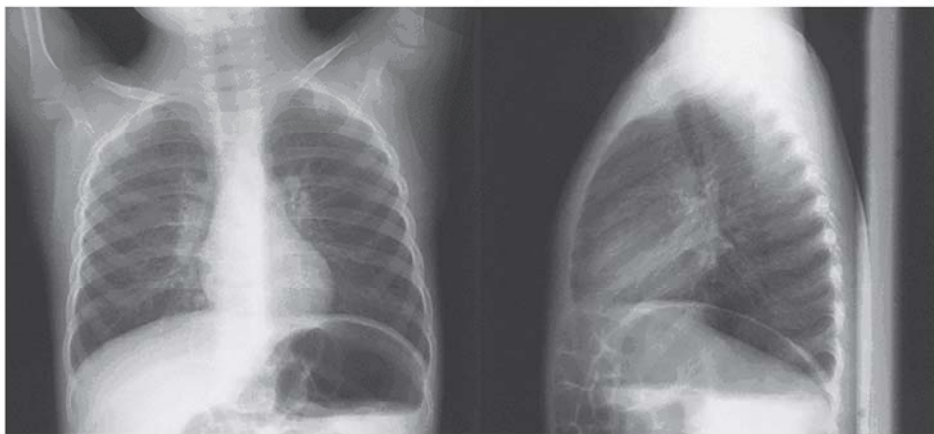
12月26日37.8°Cの発熱、咳が止まらないと再診。

【来院時理学所見】 体温38.9°C、呼吸数毎分50回、経皮的酸素飽和度96% (room air)、鼻汁著明、胸骨上窩に軽度の陥没呼吸あり、左頸部リンパ節大豆大1個触知、胸部聴診上右肺野に複雑性ラ音を聴取した。腹部所見に異常なし。

以上の所見から肺炎を疑い、血液検査と胸部レントゲン撮影を行った。

【血液検査所見】 WBC:9200/ μ l, RBC:467 \times 10⁴/ μ l, Hb:11.9g/dl, Ht:36.0%, Plt.:14.8 \times 10⁴/ μ l
Na:137.6mM, K:3.8mM, Cl:102.4mM, Ca:9.0mg/dl, AST (GOT):38 IU, ALT (GPT):14 IU, BUN:6.0mg/dl, Cre:0.30mg/dl, CRP:3.43mg/dl

【胸部レントゲン所見】



肺門部の気管支陰影増強、全体的に透過性亢進、過膨張を呈している。

【診断】 急性（細）気管支炎

問題 1. 何の感染でしょうか？

問題 2. 合併症は？

解答と解説

公立福生病院 小児科医長 清水 マリ子



【問題1】RS ウイルス

RS (Respiratory syncytial) ウイルス感染は小児科領域では“common disease”だが、検査キットを用いて鼻汁中の抗原を迅速に診断することが出来る。今シーズンRS ウイルスは例年に比し大流行を見せている。

【臨床経過】入院後の治療としては、補液と抗生剤静注（二次感染、混合感染を考慮）、 β 刺激剤吸入療法、口鼻腔内の吸引、去痰剤などの内服、室内の加湿を行った。鼻閉が強く中耳炎が疑われたため当院の耳鼻科を受診させたところ、両側滲出性中耳炎であった。翌日には解熱し、徐々に食欲、睡眠障害も改善し、入院4日目には全身状態良好となり退院となった。退院後もしばらく鼻汁が続き、引き続き耳鼻科通院を続けた。

なお、Back groundとして患児は平成18年度より保育園に通園しており、保育園で感染曝露を受けたものと考えられる。既往歴のロタウイルス腸炎も入園後まもなくの入院であった。（余談だが仕事をもつ母親がようやく保育園に子供を預けても、しばらくは次々に感染症に罹患し母親泣かせである。）一方、入園していない小児でも、兄弟がいる場合は罹患リスクは有意に上昇する。

【問題2】6ヵ月未満の乳児では重症化しやすく、特に未熟児、早産児、先天性心疾患児、新生児期における無呼吸が頻発した場合には突然死の危険がある。多量で粘稠な鼻汁のため哺乳困難や睡眠障害を来したり、急性中耳炎、滲出性中耳炎の原因となる。

【解説】RS ウイルスは乳幼児における気道感染症の最も重要な病原体である。パラミクソウイルス科に属し、類似の症状を示すウイルスとしてはhMPV (human metapneumovirus) が知られている。乳児のRS ウイルス下気道感染(特に6ヵ月以下)は緊急入院の可能性のある疾患であり、喘息発作との鑑別が重要である。本症例は2歳9ヵ月であり年長と感じられるかもしれないが、2,3歳でも意外に多く、4歳以上の年長児でも発症が少なくない(成人の鼻汁からも検出される)。毎年11月から4月にかけて流行が発生し、1シーズンに2回以上罹患する場合もある。初発症状は鼻汁と咽頭炎である。全体の6割に37.5°C以上の発熱を認め、39~40°Cの発熱も少なくない。気道分泌物(鼻汁、痰)が非常に多く、粘稠で頑固に続くのが特徴である。新生児では痰づまりによる気道閉塞もあり危険である。喘鳴は乳児期から1歳代ではよく見られるが、2歳以上になると喘鳴を伴わない割合が徐々に増加する。病状が進むにつれ呼吸困難を生じ、哺乳障害、呼吸数の増加、陥没呼吸、肺野過膨張、チアノーゼ等を呈する。治療は、気管支拡張剤、補液など対症的に行う。人工呼吸管理を要する例も少なくない。経過は通常4~7日程度で改善する。

予後としては、生後1年以内にRS ウイルスによる下気道感染に罹患すると、以後10歳頃までの喘鳴と喘息の発症率が有意に高くなる事が判っており乳児期の予防が重要である。

近年、ハイリスク小児に対して抗RSVモノクローナル抗体パリビズマブ(シーズン中は適応患者に対し毎月筋注)の投与が保健適応となり効果を上げている。適応は、在胎週数35週以下の6ヵ月齢以下の早産児、生後24ヵ月齢以下の先天性心疾患患者、21トリソミー患者などである。

感染症だより

<全数報告>

第52週に感染症法2類疾患である細菌性赤痢の報告がありました。患者は海外旅行先で感染したと推定されております。症状は軽い腹痛や軟便程度であり、抗生剤投与で治癒しました。

<定点からの報告>

	50週	51週	52週	1週	2006年 累計
	12.11~17	12.18~24	12.25~31	1.1~7	
RSウイルス感染症	0	2	3	0	7
インフルエンザ	0	0	2	0	1,577
咽頭結膜熱	5	9	1	1	139
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	3	4	0	201
感染性胃腸炎	120	73	64	22	1,969
水痘	7	7	17	1	330
手足口病	1	1	1	0	142
伝染性紅斑	2	2	4	4	113
突発性発しん	1	0	1	1	133
百日咳	0	0	0	0	1
風しん	0	0	0	1	0
ヘルパンギーナ	0	1	1	0	93
麻しん(成人以外)	0	0	0	0	2
流行性耳下腺炎	0	1	1	0	193
不明発疹症	0	0	0	0	0
MCLS	0	0	0	0	0
合計	141	99	99	30	4,900

※基幹定点報告対象疾病<細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、成人麻疹>:マイコプラズマ肺炎の報告が3件ありました。

<コメント>

全国的には感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、マイコプラズマ肺炎が増加しています。

都内で全国レベルと同等か上回るのは、感染性胃腸炎です。

管内では水痘が一時増加したものの減少しました。

<お知らせ>

感染性胃腸炎は11月中旬から12月上旬をピークに届け出数が減少しています。原因の大多数を占めるノロウイルスは感染力が極めて強いので対策の手をゆるめると容易に再燃します。嘔吐時の対処と手洗いがポイントです。とくに吐物処理後、付着した場所を塩素系消毒薬で消毒することが集団発生を防止する上で重要です。患者さんを診察された際には感染予防対策のご指導をよろしくお願いいたします。

そろそろインフルエンザが流行する季節です。西多摩保健所管内定点医療機関からは12月下旬(第52週)に報告が2件ありました。外出後のうがい、手洗いやワクチン接種など感染予防対策のご指導をお願いいたします。

(文責:西多摩保健所保健対策課)



「伊豆の細道・裏通り」

羽村市 永仁醫院 古川 朋 靖

私の趣味のひとつとして、海釣りがございます。一口に海釣りといいますが、なかなか奥の深いもので、船で沖にでる船釣り・磯場でする磯釣りなどの本格的な釣り、はたまた、子供と一緒に堤防でするファミリーフィッシングにいたるまで多種多様の楽しみがあります。私自身は、これまでにいろいろな釣りをしてまいりましたが、現在は、堤防からの烏賊釣りにハマっております。「堤防から烏賊なんか釣れるのか？」といった声を、同じ海釣り師からも、多々聞きます。その答えは、「条件さえ合えば、そして腕が（経験でしょうか）あれば比較的簡単に釣れてしまう。」となります。対象となる烏賊は、あおり烏賊、するめ烏賊、やり烏賊、などなどであり、烏賊全般といえます。なかでも、味覚的に長けているあおり烏賊が、メインターゲットになります。堤防からのあおり烏賊釣りは、多様な釣り方がありますが、私自身は、伝統的な漁法である餌木（エギと読みます）を利用した方法を中心に行います。餌木とは、魚の形を模した和製ルアーであり、伝統的といいますが、実際にはルアーフィッシングといえます。そのため、餌を用意することなく、竿とリール、そして餌木（ルアー）があれば、簡単に始められるつり方です。最近では、この方法はエギングと呼ばれ、非常に人気の高い釣りとなっております。道具立てが簡単であればあるほど、奥の深い釣りとなっております。釣りの季節的には、春と秋が中心になりますが、その他の季節でも釣れないことはない……といえます。時間的には、烏賊釣りというと「漁り火」に代表される夜釣りが多いのですが、エギングにおいては、夜でもいいのですが、より昼間のほうが釣りやすいと考えられています。そして大事なのが、烏賊釣りに条件のよい漁港をいくつも回りな

がら釣りをするとということです。

私の今はまっている釣りの概要をお書きしました。わかりにくい解説になってしまいましたが、簡単に言うと、「竿一本とルアーを持って、いろんな漁港の堤防を釣り歩く……」と言う事になりましょうか。何も釣り方レクチャーをここにダラダラ書くつもりはありません。私は、エギングをするために伊豆半島、特に南伊豆から西伊豆・沼津方面へよく行きます。年間、家族サービス（このときは釣りはしません、できません）も含めると、10回以上は行っていると思います。このときに得た伊豆半島の楽しみ方、あまり紹介されない地元情報を、私の雑感を含めて書かせていただきたいと思います。話の流れをわかり易くするために、一番出張って釣りをした場合と仮定して、出発から帰宅までを書かせていただきたいと存じます。

1. 羽村を出発する。

私が釣りに行くのは、木曜日が休診のため、いつも決まって水曜日の夜。日曜日に行かないのは、平日のほうが空いているから。（エギング人気は過熱気味で、日曜日などは伊豆半島の各漁港は、エギングをする人で溢れてしまいます。）午後の仕事が終わって、食事をして、さっさと布団に入ります。寝ていられるのは実質2～3時間、夜中の12時には起きます。ちゃちゃちゃっと準備をして出発です。釣りへは、完全に一人で行くときと同行者のいる場合とがあります。昔は完全に一人で行くことのほうが多かったのですが、最近は同行者ありのほうが多いです。最近の同行者は、皆さんも知っているかもしれません。釣りの好きなMRさんで、よくお魚のネクタイをしている人です。伊豆半島を目指すルートは色々ありますが、私は中央高速八王子イ

(8)

ンター→河口湖インター→富士五湖有料→東名高速御殿場インター→沼津インターと進みます。沼津インターに着くのは大体出発から2時間くらいです。沼津インターを降りてからは、沼津の市街地を走り、修善寺道路を越えて、ただひたすら伊豆半島を南下します。沼津から下田周辺に着くのは朝の4時過ぎくらいになるのが普通です。この間黙々と運転をするのですが、道は当然のことながらガラガラです。伊豆半島の夜には様々な野生動物が出現します。普段は観光地であり、人がごった返しておりますが、逆に夜は動物天国といってもいいかもしれません。よく見かける狸や狐はもとよりイタチ・サルさらには、鹿の群れまで…この時ばかりは「まだまだ伊豆も捨てたものではないな」と実感します。狸・狐・イタチは、伊豆半島の市街地でも山間部でも、いたるところで目撃します。サルに関しては、松崎から雲見へ続く西伊豆に多いように思います。鹿ですが、私が多数目撃したのは、天城越えの途中で道端まで出てきて草を食べていました。

2. 下田南伊豆周辺について

下田周辺に着く頃には、季節にもよりますが、薄明るくなってきて、釣りとしては戦闘体制に入ります。よく行くのは下田では福浦港、犬走り堤防、南伊豆では妻良（めら）港、子浦港、などであり、各漁港を20～30分位ずつ釣り歩きます。（当然まだまだ港はありますので、その日の気分といったところでしょうか）ベストポイントに入って、釣りをして、釣れなければ烏賊がない（自分の腕は棚に上げて）と判断してさっさと移動をします。逆に考えれば、ベストポイントで一杯ずつでも釣れれば、回った港の数だけ烏賊を釣ったことになりすし、楽観的に考えなければ、つまらないですから。

釣りの話だけでは面白くないので、下田・南伊豆の温泉・観光について書かせていただきます。この地区にはいくつもの有名温泉があります。何ヶ所かに泊まって温泉に入った印象では、一番良いと感じたのは、「観音温泉」です。あまり聞きなれない名前ですが、下田

から車で20分くらいの山の中にあります。一軒宿の温泉ですが、湯治に利用できるリーズナブルな宿泊施設から豪勢な露天風呂の付いた部屋まで多彩です。従業員の方の対応もみな親切であり、非常に心地のよい温泉です。この温泉の売りは、pH9.5という強アルカリ泉であることです。湯船や大風呂の床はヌルヌルしていて、注意していないと転びそうですし、湯に浸かっていると皮膚までツルツルになってきます。特にご婦人には喜ばれるようです。（この温泉から作ったという化粧品も売っておりますが、どうも家内も愛用しているようです。）また、私の親しくしている南伊豆や西伊豆に住んでいる方々は、「伊豆で一番良い温泉（宿も含めて）はどこ？」と聞くと、まず出てくるのが、この温泉の名前だったりします。どうも地元の方々にも愛されているようです。この温泉に関しては、まだまだ面白いエピソードがありますが、それらはホームページをご覧くださいと思います。次に好きなのは、下賀茂温泉です。何もない鄙びたところですが、この「伊古奈」と「南楽」という温泉旅館はなかなか風情もありますし、温泉も気持ち良いと感じました。「伊古奈」は、かなり古い建物もあり部屋のランクによってかなり印象が変わります。何回か泊まりましたが、やはり椿殿という露天風呂つきの部屋に泊まったときは心まで洗われてしまったかのようでした。（ついでに財布の中まで洗われてしまいました）さらに、庭に源泉があつて、そこで勝手に蒸す事のできる温泉卵はおいしかったです。「南楽」は、リニューアルしたのか比較的きれいです。この宿には、無料の貸切風呂がいくつもあり（20以上）、勝手に使っているというのが斬新です。貸切風呂はそれぞれに趣があつて、のんびり湯めぐりをするには最適かと思います。

日帰り温泉ですが、この地区にもいくつかあります。下賀茂温泉の「銀の湯会館」、弓ヶ浜の「みなと湯」などです。（先述しました観音温泉も日帰り利用できます）「銀の湯会館」は休憩室も広々しており清潔で、結構湯に入ったり昼寝をしたりとのんびりできます。一方「みなと湯」は、通常の銭湯のよう

なもので、あまり休憩できるスペースはありませんが、海に近いせいかナトリウム泉であり、とてもよく温まります。(夏場は逆に湯上がり後が暑くて仕方ないくらいです)

観光でお勧めなのは、「狩り」ものが主体ですが、「一条たけのこ村」や「花狩り成見園」がお勧めです。「一条たけのこ村」では、旬の味覚(筍や椎茸、栗など)が狩れます。特に春の筍シーズンには、筍狩りの会場入口で焚き火をし、その中に生の筍を入れて蒸し焼きにしてくれくれます。当然来園者には無料で振舞われますが、これが絶品で、いくらでも食べられてしまうものです。「花狩り成見園」では、12月下旬からゴールデンウィークまで花狩りが楽しめますが、なんといつでもキンギョウソウがメインとなります。自分で好きな花を選んでとってくるのですが、なるべく茎の太いものをとってくるのがポイントかと思えます。(俗に一番花と呼ばれていて、次々と脇芽として出てくる細い枝と区別されます)これらは水揚げもよく非常に長持ちしてくれます。なお花狩り園の入り口には比較的好い干物屋もあります。(ただし、ここが私の一押しではなりません)

お食事処はあまり多くはないのですが、強いてあげるのならば国道136号線弓ヶ浜手前の「割烹おかだ」、下田から妻良港へ向かう途中(国道136号線立岩地区)にある「びゃく」などがあげられます。「割烹おかだ」では季節により高足ガニを注文することもできます。お勧めは「わだつみ定食」という鍋料理です。この中に入っている「すいとん」はおいしかったです。「びゃく」は地魚料理屋ですが、私の一押しは「穴子丼」と季節限定のズガニ汁です。

お土産物屋。この地区を通ったときにほぼ立ち寄るのが、下田から弓ヶ浜へ向かう国道136号線沿いにある(下田のはずれ)「メロンランド」といういかにも古めかしくも、少し危なそうな(?)ネーミングの店。また、先ほど紹介した「びゃく」から国道136号線を少し妻良へ向かって走ったトンネル手前左手にある「山吹」です。「メロンランド」では、「梅蜜」という梅のはちみつ漬(簡単に言えば梅ジュースの元です)を買います。

これを水で割って飲むのですが、夏場の疲労回復には最適です。5年もの10年ものと熟成が進めば進むほど濃厚な味となります。お好みで完熟メロンもどうぞ。「山吹」は、元々は老夫婦の営む地元の定食屋だったのですが、年と共に定食屋を廃業し、現在では細々と地物のひじきなどをすべて手作業で作っております。この店は場所が非常に解りにくいかと思います。当然ここでは、「ひじき」を買います。ここのひじきは大変やわらかく、ほかの店のひじきが食べられなくなってしまいます。いつも買いに寄ると、お茶のみ話が始まって、なかなか腰が上がらなくなってしまいます。

3. いざ西伊豆へ

下田、そして南伊豆(自分のホームグラウンド)での釣りに飽きたら、今度は西伊豆方面へ車を走らせませう。山越えをすると、雲見港・石部港・岩地港と順繰りに進みます。雲見港は、ダイビングが盛んです。石部港には、無料の露天風呂があります。(水着着用)岩地港は、民家の町並みが美しく東洋のコートダジュール(?)などと呼ばれています。これらの港で釣りをしながら、今度は沼津方面へひたすら北上することになります。大体このあたりまでで、その日の釣果は決しております。ボウズなのか、ウハウハなのか…。詳しくは触れませうまい。どちらにせよこれからは、家族サービスのための買い物と自分の小旅行の楽しみとしてのドライブへと様変わりしてゆきます。(貧果であればあるほど)

岩地港を越えて、さらに山越えをして北上すると市街地に入ります。ここが松崎です。松崎に入ればばらく進みますと、長八美術館の駐車場が見えてまいりますので、左側の市営(?)駐車場に車を止めます。車を止めましたら、国道136号線を渡ります。長八美術館に興味のある方は、まず鑑賞を。そうでない方は、2軒並んでいるお土産物屋に向かって左側の方のお店へ。右側のお店はつい最近オープンしたばかりで大変きれいです。ここはぐつとこらえて左側の昔からある、ちょっと寂しそうな方のお店へ。ここが次の

立ち寄りどころ「ロマンショップ横山」です。最近、私もこの名前を知ったのですが、なんともいえない、ちょっと勘弁してほしいような名前に驚いています。まずは店のおばちゃんのお勧めのままに「ところてん」を食べましょう、そして「お茶」もいただきます。運がよければ七輪で焼いている「食パン」も食べるようにいわれることでしょう。遠慮せずにいただいて、世間話に花を咲かせるのがここでの作法と考えて良いと思います。この店には必ず立ち寄るのですが、目的は、「桜葉餅」です。松崎には2軒、桜葉餅を作っているお店がありますが、この店で扱っている桜葉餅のほうが個人的に好きなものですから。そしておばちゃんたちの気取らない所も気に入っております。地元の事を聞けば大抵の事は教えてくれます。私の大切な情報源のひとつでもあります。買い物が終わったら、駐車場に戻りますが、この駐車場に面したお店が「さくら」といって、「まご茶」の美味しいお店です。地元の人の間では「並んでも食べたいさくらのまご茶」などといわれているそうです。確かに、美味しいと思います。お腹が空いていれば是非のご賞味を。「ちょっと魚貝類に飽きてしまった…」という方には、ちょっと分かりづらいのですが、蕎麦屋「小邨」（こむら：加茂郡松崎町伏倉43）をお勧めします。何度か食べに行きましたが、比較的好いと思います。

松崎の市街を抜けると、左手に仁科港が見えます。この港に入っていくと、すぐに「仁科漁港直売所」があります。ここでは、新鮮なサザエやトコブシ、アワビ、イセエビといったところが手に入ります。値段は、相場がよく分からないのですが、そこそこいったところだと思います。こちらは好みで。

さらに進みますと、堂ヶ島温泉にでます。この温泉街での一押しの旅館は、アメニティの充実ぶりで「堂ヶ島ニュー銀水」となりますが、地元の人に言わせると源泉を自家所有している「堂ヶ島温泉ホテル」が良いそうです。私はこちらには泊まったことがないのでなんともいえませんが。

さらに進んでいきますと、田子地区に入ります。ここは、カツオ漁などで有名なところ

ですが、お目当ては国道136号線沿い左側にある「堂ヶ島海産センター」です。広めの駐車場とぐるぐる回っている干物干し機が目印です。私自身以前は、「カニ汁無料！なんて看板からして、なんとも怪しい店だな…」という感想を持っており、なかなか立ち寄らなかった店でもあります。いつのことだか、物は試しに入ってみようということになり入ったのが、立ち寄りどころの主役に躍り出るきっかけでした。この店は、簡単に言えば干物屋です。お店の中の紹介の前に、この店と（この店の主人といったほうが良いか？）仲良くなった経緯からお話したいと思います。ズバリ、キーワードは「車」でした。私は現在、フォルクスワーゲンのパサートワゴンに乗っておりますが、この車は少々特殊なエンジンを積んでいます。通常そんなことに気づく人は皆無であり、逆に「トヨタの車ですか？」などといわれることがあるように、あまり目立った車ではありません。その車を店のすぐ前に止めて店に入っていくと、店のオヤジが出てきて、商品の説明をするどころか車談義になってしまいました。自称「不良中年」というように、国産の車を数百万かけて改造するは（車検は取れてますが）、ハーレーを乗り回すは、確かに「不良中年」(?)かもしれませんが、なんか話があっってしまったのが事の始まりでした。店に行くたびに、うちの車を見つけるとすぐ出てきては、「今日は釣りか？」などといわれる始末です。

店の中には所狭しといろいろなものが置いてあります。メインは干物、塩辛、乾物（ひじき・ふのり・天草など）、加工食品、はたまた自家製の塩まで。どれも通常のお土産物屋さんよりも多少安い値段でした。人間不思議なもので「これは安かろう悪かろうではないのか？」などと勘繰ってしまうのですが、どうも話をしていると、地元の漁師から直に取引をして自分のところで加工をしているからだとか。天草なんかは自分でとりに行くとか。コストダウンには人並みならぬ努力をしているとの事で、多少納得が出来たようです。

この店での勧めは、自家製のところてん、キンメダイの味噌漬（言わないと出てきません）、干物全般、（特に秋刀魚の丸干し）、

その他お好みで。

お土産を買い込み、さらに西伊豆を沿津方面に北上します。土肥の恋人岬を越えてしばらく進みますと、右手に西伊豆病院という病院が見えてきます。この病院の隣に（駐車場の先の側道沿い）地域の老人会がやっている地場産品の直売所があります。地域的に花の直売が多いのですが、時に掘り出し物が見つかるかもしれません。私にとっては、定番コースとなっており、いつもみかんなどを買って帰ります。

しばらく行きますと土肥温泉の市街地に入ります。ここから船原トンネル方向へ右折して、山を登っていきます。山を登り始めて、岬の手前に牧場直営のお店があります。のどが渴きましたら、ここで牛乳一杯というのも新鮮で良いかもしれません。（結構おいしいです）

船原トンネルを過ぎていきますと、今度は下りになります。岬を下りきって、しばらく行きますと、道の駅ならぬ「旅の駅」が見えてきます。ここには「地獄極楽めぐり」という大変カルトな施設も併設されています。私は、まだ一度も入ったことがないのですが、興味のある方は、ぜひ一度お試しください。（子供連れではなかなか入りにくいですし、一人ではもっと変）

ここから先は、時間にもよりますが沿津市内を越えて東名沿津インターを目指します。伊豆中央道途中にある「いちごプラザ」に寄りますと、買い忘れたお土産を買い足すことが出来ます。お腹が減っているようでしたら食事も出来ますし何かと便利なところですよ。季節にもよりますが、駐車場中央のうどん屋さんで食べられる「ズガニうどん」は絶品でした。（コストパフォーマンスが高い）店外の水槽にいっぱいカニが入っていたらチャンスです。

4. そして一夜の夢は覚めていく

帰りはただひたすら、睡魔と闘い（一人の場合）、羽村を目指します。来た道を帰っていきますが、あまり遅い時間にならないければ、渋滞にもつかまらずに帰り着くことが出来ます。夜中に羽村を出発して、平均すると15

時間位で帰ってくることになります。距離的には400～500kmといったところですよ。自宅に帰り着くと「一夜の夢」は覚め、今度こそ本当の夢の中へ（爆睡）入ってゆくことになります。

さて、釣りをすることが目的で出発している訳ですから、「ともかく釣果優先で、人を出し抜いても釣りたい…」などという気持ちも全く無いわけではないのです。しかし最近は、そんなことよりも「日常」から抜け出して「非日常」へ入り込む。この事の方がよっぽど重要なテーマになっています。「夜中の道を走る」地元の人の日常に少しだけ入り込む」「誰もいない堤防でイカと戯れる」「興味が出たら、即実行」などなど、自分にとっての非日常を体感することによって、より日常が新鮮なものになっていく気がします。こういった気持ちは誰にでもあるものなのではないかと思いますが、たまたま私の場合は「釣り」がその手段だったようです。今回紹介させていただいたような釣りもありますし、他にも「そんな釣りをしているのか?」と言われそうな「釣行」もあります。もし、「こんな非日常に興味がある」などという方がおられましたら、一声かけてください。釣りをしに、一夜の夢を見に行くのも面白いかもしれません。

*今回、いろいろなお店やポイントを紹介いたしました。しかし大変不親切なことに地図の掲載も無ければ参考の写真もありません。それもこれも、ご自身で体感していただけると、新たな発見があつて良いかと思つてのことです。現地へ出向くのも良いですし、インターネットで情報を得るのも良いかと思つています。（ガイドブックにはあまり載っていないお店が多いです。）重ね重ね不親切をお詫びさせていただきます。

*もし、「もう一步踏み込んだ情報を!」というご要望がありましたら、
tomofuru1963@hamurashi-med.or.jp
までどうぞ。



風に吹かれて

青梅市 かがしま眼科 鹿児島 武志

シーズンは、とうに過ぎてしまったが、先日、再生紙の回収に出し忘れた古新聞の一枚が何気なく目に入った。そこに書いてあるニュースによれば、かの国の核実験の影響とかでマツタケのキロ当たりの相場が普段の3倍に上がったとあった。株式欄や経済新聞に虫眼鏡がないと見えないくらいに細かい字でかいてある市場の相場欄がある。商品市場でみかける物品の相場とは、需要と供給の狭間を多くの人間が欲と思惑を交錯させて出来上がっている世界らしい。何も高い金を支払ってまでして、そんなにマツタケが食べたいのかと勘ぐってしまうが、それはお門違いらしく、普段は口にすることがない人種の言うことらしい。初鯉は江戸時代では現在の貨幣価値にすると無茶苦茶といえるほど高価な代物で仲間と共同で鯉を買うこともあるけど、それでも初売り後20日もすると値段がグッと下がってくると記載があった。その頃に買い求めればよさそうなものだが。当時の物流レベルは現代には到底おぼつかないにせよ、決して未発達であったわけではなく、やはり100年以上前の先祖も、特に江戸っ子は初物好きという点では同様の心理状態だったのだろう。

という訳で季節ものは旬に食するのが善いに決まっているが、帰宅して毎晩食べる訳にはゆかない。その点、手軽に食べることができてノド越しのよい豆腐は私の好物の一つである。スーパーの豆腐コーナーには沢山の、それこそ覚えきれない位の名称のついた豆腐が所狭しと並んでいる。「風に吹かれて豆腐屋ジョニー」、「やっこ野郎、男前」「冷やっこちゃん」、「ふわふわ」、などなど、これが一体どうして豆腐の名前なのだとも思うが、ネーミングで売れ行きがバカにならないほど違ってくるのが昨今のご時世だ。名前を考えつく方も必死なのだろう。

それにしても？とっていた矢先、新聞にこんな記事も出ていた。くだんの「豆腐屋ジョニー」は平成16年に一日6千丁で発売したが、売れに売れて翌年には3万丁そして今年（平成18年）は一日なんと10万丁の売れ行きだそうで主婦には人気の一品らしい。

そうなると他のメーカーが放って置く訳がな

い。たちまち乱立合戦か？ともいえる豆腐のネーミング戦争の感がしなくもないが、これが280～350円という結構な値段にも関わらず飛ぶように売れてゆくそうだ。「そうだ」といったが、自分も豆腐愛好者なので多少高くても、少し変わった名前でも、形が変わっていても、豆腐は美味しく食べたいという欲求には逆らえない。豆腐連合会なる団体の広報によれば、豆腐の歴史は中国では前2世紀に作られたと、16世紀の本草綱目に記載があるという。わが国では奈良春日大社の神主の日記に（春近唐符一種）との記録があり、平安時代末期には豆腐が作られていたという根拠になっている。本格的には江戸時代の料理本の「豆腐百珍」が世にでると爆発的な人気を呼んだことからでも豆腐に対する当時の人気ぶりが覗える。毎日のように食べていると各社の味自慢を試してみたくなるもので、先ほどの妙な銘柄公開となった。売り場の豆腐を買ってしまう客の心理からみると物の価値判断の基準がいかにかネーミングにより決まってしまうことに改めて気付く。買い手の心理をうまくついた売側の知恵であろう。

ところで偶然上記の「風に吹かれて……」の製造業者の記事も出ていた。何でも、このようなネーミングにした深い意味はないそうで、本人の耳によく響いたというから軽いノリらしい。概して時期を心得たタイミングとネーミングを深慮した宣伝戦略は、見て聞いて気に入れば、考えなくともつい買ってしまうのはテレビ前の現代人の視聴者感覚に沿ったものなのだろうか。寒いと冷奴は湯豆腐に変身するが、夏の季節に舌に遣う食感が良いからといっても同じものが湯豆腐にも良いとは限らないのも面白い。そのせいかなだろうか、先日スーパーの豆腐コーナーに立ち寄ったら「風に吹かれて豆腐屋ジョニー」はヒョイと姿を消し、形もやや小ぶりになり「波乗りジョニー」、またその横に「ジョニ男」が並んでいた。弟分だか冬バージョンかは分からないがこれはひよっとしたら、業者は調子に乗って、さらに「悪乗りジョニー様」と命名したほうが売れ行きがよかったかも知れない。

特別企画によせて

編集部

今月号では昨年、惜しまれつつお亡くなりになった先生方の思い出、あるいは哀悼の意を込めて、このような一度限りの特集を企画致しました。故人の作品の掲載にあたりましては、先生方の賛否両論はあるかと思いますが、会報誌上では、今後お目にかかれぬ点などもご了解いただき、ご覧下さい。構成にあたりましては、市原先生とは長年にわたってご文友のありました石井好明先生より追悼文を戴きました。また川崎先生の「司馬遼太郎考」は編集委員の賛同を得て、平成17年1月号掲載の長文を原文のまま掲載し、道又正達先生に追悼文をよせて戴きました。細谷先生の「鳥シリーズ」は正子夫人より快諾を戴いた上で、写真をお借りし、坂本保己先生より追悼文を戴きました。

市原靖先生追悼

昨年11月に亡くなられた市原先生とのおつき合いは、先生が青梅市立総合病院内科にいられた時からですから、45年位になります。盲老人ホーム聖明園の健康管理医も兼ねておられるので、超御多忙のようでしたが、当時外科に居た小生は、自分の患者さんに内科的な問題があれば、事の大小を問わず、すべて先生にお願いし、先生からは手術適応のある患者さんを数多く紹介して戴くという関係でした。

その後、先生は聖明園の中に診療所を開かれ、病院を退職されましたが、この関係は続いていました。お世話になったのは患者さんばかりでなく、小生自身も肝炎発症の時は、過労のためとゆっくり休ませて下さいましたので、十分に健康を回復することができました。また、父が老衰した時は聖明園富士見荘に入れて下さり、家では寝たきりになった

父が、一時的にせよ、園の盆踊りに参加できるほど体力・気力を回復したのに驚かされ、老人施設の有難さを痛感するなど、個人的にも大変お世話になりました。

更に16年前からは、週1回ですが聖明園寿荘の健康管理をお手伝いするようになり、先生が健康を害されてからは、診療所も一部お手伝いするなど、仕事上のおつき合いはエスカレートしました。

先生はゴルフ大好き人間だったのですが、小生はベビーゴルフというのを1回やらされただけというズブの素人なので、長年の先生との会話の中で、ゴルフは勿論、遊ぶことに関した話題はほとんどなかったような気がします。仕事ばかりでなく、もっと一緒に遊んでおけばよかった、と亡くなられてから悔んでおります。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

〈H18年11月19日 御逝去〉
青梅市健康センター 石井好明

川崎健一郎先生を偲んで 第二報

どなたのご推挙によりますのか木野村先生の後任として、私は昭和53年会報編集委員会にお世話になることになりました。そのときの編集委員長が川崎健一郎先生だったので。福生医師会でもお顔だけは、存じ上げていましたが、当方まだ若輩者で先輩の先生方には開業して10年経過しても新規開業する先生も少なく、新参者と評価されていたように思います。

さて、拙筆で先生のことを文章にすること自体、大変不躰と思いますが、敢えて先生のことについて書くべきと思ひ、湯川先生とは別の視点から触れたいと思ひます。

西多摩医師会六十年史の編纂に委員として既に文才を認められ、昭和53年に大河原周

先生の後任として西多摩医師会報の編集委員長となられ二年間、土田守一、堤次雄、植田稔、松原貞一、桂木真、足立卓三、米山秀雄、堀田洋夫、道又正達（順不同敬称略）以上9名が編集委員となり大変お世話になりました。先生は『人生の達人』だと心より私は叫びたい。兎に角、後輩に優しい紳士でした。先生の一風変わった独創的な論調で、小気味よく問題点を捉える迫力・知力には凄まじいものがありました。とても真似できるものではないと思います。十数年前、内山先生、宮川先生ご夫妻、宮城先生、玉木先生、その後家族と私などでカラオケの会を数回繰り返したことなどありまして、先生のお褒めのお言葉を頂戴いたしましたのを大変光栄なことだと思っております。合掌

編集委員 道又正達



司馬遼太郎考

大聖病院 川崎 健一郎

私は歴史上の人物の伝記や歴史小説が好きだ。それらの作品を読むことによって、世の中を見る目が肥えてくるし、人生いかに生きるべきか、ということも自然に分ってくる。歴史は私にとっては、そういう意味では一番大事な師匠だと思っている。

最近読んだ伝記で印象深いのは、宮城谷昌光の『子産』(中国春秋時代の小国鄭の宰相子産を主人公として描いた作品で、孔子は、この子産と周公旦を尊敬する人物として挙げている)、津本陽の『巨眼の男』(西郷隆盛の伝記で、私はこの作品によって初めて隆盛の偉さが分った。実はこの作品を読むまでは、どうしても彼の偉さが分らなかったのである)、浅田次郎の『壬生義士伝』(小説の題材としてほとんど取り挙げられなかった男、新撰組隊士の吉村貫一郎を主人公とした作品)、そして司馬遼太郎の『空海の風景』(これは歴史小説の範疇に入るかも知れないが、この作品によって空海や密教のことが、私のように無宗教の者ですら、おぼろげながらその概念をつかむことができた。やはり司馬氏の筆力のおかげだと思っている。この作品は不朽の名作『坂上の雲』に勝るとも劣らぬ大作といってもいいと思う)。歴史小説で最近読んだのは、浅田次郎の『蒼穹の昴』である。これは清朝末期の物語で、世界で唯一の制度である宦官かんがんのことが詳しく書かれており、また欧州諸国の帝国主義の最盛期で、清国の領土がそれらの国々によって蚕食されつつある時代がテーマになっており、ロシアもそれに便乗して、満州を強奪し次いで遼東半島も手中に収め、次には朝鮮半島を窺っている時代が背景となっている。私はこの作品を読み終って書棚にもどそうとした時、たまたま『坂上の雲』が目に入った。この作品は10年ほど前に一度読んでいたのだが、その内容が蒼穹の昴とほぼ同時代のことを書いたものだったので、再度読む気になって読んだ。読み終って気が付いたことは、珍しいことに、巻1から巻6まで全ての巻に『あとがき』が

書かれていることだった。しかもその総ページ数はなんと50ページもあった。ちょっとした短篇小説ほどの長さである。『空海の風景』のあとがきも14ページと長いものだった。あとがきは、たとえ書いてあってもせいぜい3～5ページぐらいが普通である。

まえがきが長くなってしまった。ここらで本論に入ることにする。私は、坂上の雲のあとがきだけを、さらにもう一度通読して得た司馬遼太郎像を(空海の風景のあとがきも多少混えて)書こうとしている。ところで坂上の雲という作品は、秋山好古よしふる(陸軍)と秋山真之まゆき(海軍)の兄弟が一応軸となって展開してゆく格好になっているが、厳密な意味では主人公はいない。なにしろ明治10年代から日露戦争が終るまでの長い間の物語だから、その時その時にいろいろな人物が登場して主人公のような立場になるのである。また、この作品の主要テーマは日露戦争であり、それを中心軸として彼の史観・人生観ならびに日本人・日本の国に対する熱い想いが籠められているのである。だから私は、この作品のあとがきの中で、彼の人間像を捉えるのに参考となる箇所を抽出し抜粋しながら、途中に私見を挟むといった形でこの稿を進めてゆくことにした。注：以下「」印は彼のあとがきの抜粋を示し、()印は私見を示すことにした。

先ずは、あとがきの抜粋から始める。

「たえずあたまにおいている漠然とした主題は、日本人とはなにかということであり、それも、この作品の登場人物たちがおかれている条件下で考えてみたかった」

「このながい物語は、その日本史上類のない幸福な楽道家たちの物語である」

(次の一節は名文であり、またこの作品の題名のもとにもなっている)

「楽道家たちは、そのような時代人としての体質で、前を見つめながらゆく。のぼって行く坂上の青い天に、もし一朵の白い雲がかがやいているとすれば、それをのみみつめ

て坂をのぼってゆくであろう」(一読心にひびく名文である)

「民衆はつねに景気のいいほうでさわぐ。むろん開戦論であった。この開戦への民衆世論を形成したのは朝日新聞などであった」(現在の朝日新聞は、どちらかというと左寄りだが、当時はむしろ右寄りだったらしい)

「やがて国家と国民が狂いだして太平洋戦争をやったのけて敗北するのは、日露戦争後わずか40年のちのことである。敗戦が国民に理性をあたえ、勝利が国民を狂気にするとすれば、長い民族の歴史からみれば、戦争の勝敗などというものはまことに不可思議なものである」(この一節は深く印象に残る記述である)

現在、自民党が派閥解消をいくら叫んでもなかなか解消しないが、明治時代も似たようなもので——いやもっとひどかったかも知れない——中央政府は長州と薩摩が牛耳っており、軍も中央では長州が陸軍、薩摩が海軍を握っていた。ところが日露戦争当時の野戦軍(現地陸軍)は、総司令官が薩摩の大山で第1軍の司令官も同じ薩摩の黒木で、第2軍の奥は閩外だが第4軍の野津も薩摩であった。このことをさびしく思い、『ひとりぐらい長州人を入れてもいいのではないか』と中央にいた長州の山県参謀総長がいいだして、第3軍司令官に長州人の乃木を指名したのである。そして同じ長州人の寺内陸相と山県参謀総長は『司令官を長州がとった以上、参謀長は薩摩にせねばまずかろう』ということで薩摩の伊地知を第3軍の参謀長として選んだのである。乃木にとって最大の不幸は、藩閥による人事で伊地知が参謀長として選ばれたことである。中央の無責任な藩閥人事によって無能極まる参謀長が選ばれたのである。以上は余談なのでこの話はこれでやめておく。

「日露戦争を接点にして当時の日本人というものの能力を考えてみたいというのがこの作品の主題だが、こういう主題ではやはり小説になりにくく、なりにくいままで小説が進行している」(この頃、さすがの司馬氏もいささか難渋していたようである)

日露戦後に刊行された『日露戦史』は参謀本部が編集して大正2年から大正3年に亘って発行されたものだが、司馬氏はこの全10巻という膨大な書物を大阪の古本屋で「目方

で売る紙屑同様の値段で買った」と述べ、「日露戦後発行された本の中で最大の愚書だ」ときめつけている。——陳舜臣は、ある時代の歴史はその時代が終ってから数十年後に書かれたものでなければ、本当の歴史としての価値はない。——と言っているが、それは王朝が替った場合に新王朝成立直後に書かれた歴史は歪められて記述されている(新王朝に都合の良いように)から価値がないというのである。——

「これによって国民は何事も知らされず、むしろ日本が神秘的な強国であると教えられるのみであり、小学校教育によってそのように信じさせられた世代が、やがては昭和陸軍の幹部となり、日露戦争当時の軍人とはまるでちがった質の人間群というか、ともかく狂暴としか言いようのない自己肥大の集団をつくって昭和日本の運命を途方もない方向へひきずってゆくのである」(以上は太平洋戦争をひきおこした軍部に対する司馬氏の批判であろう)ところで巻5のあとがきは、内容がガラリと変って、徳富蘆花と正岡子規の記述で、紙面の大部分を費やしている。すなわち、内向的で『うつ』の傾向がある蘆花と外向的で楽天的な子規を対照的に捉えて、当時の日本の文学界を俯瞰して述べている。

「明治10年代から日露戦争にいたる明治のオプティミズム(楽天主義)はたしかに特異な歴史をつくりえたが、しかしどの歴史時代の精神も30年以上はつづきがたいように、やがて終熄期をむかえざるをえない。どうやらその終末期は日露戦争の勝利とともにやってきたようであり、蘆花の憂うつが真之を襲うのもこの時期である」(秋山真之は実際に、戦後は僧侶になろうとしたが、周囲の人たちに反対されてあきらめたが、その代りに息子を僧侶にした)なお、これは余談だが『本日天気晴朗ナレドモ波高シ』という名文句を書いたのは、当時東郷司令官の参謀長だった秋山真之だった。蘆花や子規の名前が出たのでまた少し脇道にそれるが、子規が俳句革新運動を開始したのは日清戦争開始の前年明治26年で、明治28年には、今度新しく発行された五千円札の顔になっている樋口一葉が『たけくらべ』を発売、明治37年には与謝野晶子が『君死に給ふことなかれ』を発売、明治38年には漱石が処女作『我輩は猫であ

る』を発売している。ちなみに蘆花が『不如帰』を発売したのは明治31年である。以上で余談はやめる。

「この作品は、執筆時間が4年と3ヶ月かかった。書き終えた日の数日前に私は満49歳になった。執筆期間以前の準備期間が5ヵ年ほどあったから、私の40代はこの作品の世界を調べたり書いたりすることで消えてしまった」(司馬氏のおもしろしみとした述懐である)というところで坂の上の雲のあとがきの抜粋もここで打ち切ることにする。

ところで、司馬像を捉える一助として欠かさないのは『空海の風景』という作品である。このあとがきが14ページもあることはすでに触れたことだが、そのあとがきの書き出しの一節がなかなかの名文であるばかりでなく、その一節を読むだけでも難解な密教の概要もほぼ理解できるのでそれを抜粋する。

「風がはげしく吹きおこっているとする。そのことを、自分の皮膚感覚やまわりの樹木の揺らぎや通りゆくひとびとの衣の翻りようや、あるいは風速計でその強さを知ることと顕教的理解であるとすれば、私は、多くのひとびとと同様、まだしもそのほうにむいている。密教はまったく異っている。認識や知覚をとびこえて風そのものに化ることであり、さらに密教にあつては風そのものですら宇宙の普遍的原理の一現象にすぎない。もし即身にしてそういう現象に化ってしまうにしても、それはほんのちっぽけな一目的でしかない。本来、風のもとである宇宙の普遍的原理の胎内に入り、原理そのものに化りはてしてしまうことを密教は目的としている」以上がそのあとがきの最初の一節である。

寄り道ばかりしていたが、ようやく終着駅が近くなった。そこで到着前に、上記の作品以外の彼の作品をいくつか見てみよう。彼はその作品『義経』の終りのところで、「義経の首が酒漬けにされて鎌倉にはこぼれて来たとき、頼朝が『悪は、ほろんだ』と言ひ、それを洩れきいた世間の者も、また京の廷臣たちも——悪とは、なんだろう、ということを一様に考えこまざるをえなかった」と書いているが、司馬氏は、それらの人々の口を借りて、頼朝や後白河法皇に対する痛烈な批判をしたのであろう。このことは幕末、幼帝を手中にした薩長が、一朝にして善(官軍)とな

り、会津が悪(賊軍)となったのと同じである。ところで、『坂の上の雲』と『空海の風景』のあとがきは、どちらも本文の総括といった観があり、いわば本文の結晶ともいえる内容である。だから私は一つの試みとして、主としてそのあとがきだけを参考にして司馬像を書いてみたのである。私は、彼ほど長いあとがきを書く作家をほかに知らない。ほとんどの作家は、あとがきを書いていないし、たとえ書いたとしてもすでに触れたことだが、せいぜい3～5ページぐらいのものである。彼のあとがきが長いのは、それだけ真剣に作品に取り組んでいる証しであり、強い想い入れがあるためだろう。亀井氏(アメリカ文学者)は、彼のことを『ひたむきに生きる心のつややかさを愛する人』だと評しているが、まことに的を射た評価である。彼の作品を読んだ人たちが強い感銘を受けるのは、そういう彼の熱い想いが伝わるからであろう。また、彼はその作品『幕末』のあとがきで、「暗殺だけは、きらいだ。人間のかざかみにもおけぬ」と書いているが、ただ、『桜田門外ノ変』だけは、彼ら(暗殺者たち)に昂揚した詩精神があつた」として例外として肯定している。また、『峠』のあとがきでは、「幕末期に完成した武士という人間像は、日本人が生み出した、多少奇形であるとしても、その結晶のみごときにおいて人間の芸術品とまでいえるように思える」と述べている。彼の人間に対する美意識が、どんなものであつたかということが、この記述で窺えることができる。

彼は、清らかに潔くひたむきに生きる人たちを愛した。その反面、忘恩、無節操、無思想の輩に対しては、強い拒否反応を示した。私は、人間としての至高の姿を彼に感じた。

彼の知識は多方面にわたり(全方位型)、しかもその見識は、高くかつ深遠であつた。また行動力も他の追随を許さぬものがあり、必要とあらば、どんな遠い所へでも、また山間僻地へでも出掛けて行つた。また、旺盛な知識欲(好奇心)も人一倍強かつたのではなからうか。また努力家、勉強家でもあつた。

彼の書齋や資料室は恐らく集めた資料でうずまっていたのではなからうか。また、豊かな想像力を伴つた彼の描写力(筆力)は読者をしてテレビの生中継を観ているような錯覚を起こさせるようだった。

彼の非凡さを示す一例を示すと、彼が『空海の風景』を執筆するための準備のために、「空海全集を読んでいる同時期に『坂の上の雲』という作品の下調べに熱中していた」と述べている一事だけでも頷くことができるだろう。彼は空海を天才と評したが、そういう彼自身も天才だったと私は思う。彼は、不朽の名作『坂の上の雲』によって、ついに文壇の頂点に立った。そして彼は、人生とは一体何なのだろう。ということを探し、日本人、日本の国への熱い想いを胸に抱きつつ生涯を閉じた。 おわり

(あとがき)

実は、2001年に食道癌、そして昨年2004年には胃癌と癌にばかり好かれて困っている

のですが、その癌がこのところ徐々に私の体を蝕んでいるようです。そのためだろうと思うのですが、大部、体力の衰えを感じるようになりました。それ故、会報への投稿は今回をもって終りにしようと思います。これまで長い間、拙稿を掲載して下さったことに深く感謝致します。

編集委員の皆さん、そして西多摩医師会の会員の先生方のご健勝を切に祈ります。

(編集部注) 平成17年1月号会報
(No.385) より

〈H18年12月18日 御逝去〉

細谷純一郎君、 今も鳥を追っていますか

これからという熟年で君が急逝されてしまったことに、私は大変心を痛めています。

医師会の写真部会で知り合って10年にはなるでしょう。カワセミをはじめメジロ、ホオジロ、ウグイスなどの小鳥からシラサギなどの大型の鳥まで、それもまめに関東一円に足を延ばしての労作をいつも見せて貰っていました。昨年11月発行の医師会報表紙を飾ったカワセミ(下の写真)の写真は特に一番の傑作だと思います。5年前に撮ったのだそうですが、本人お気に入りの一枚でもあったでしょう。

ソフトな背景。ピチッと合った焦点がカワセミの美しい色彩と虎視眈々獲物を狙う鋭い視線を鮮やかに捉えた傑作ですね。



愛用のカメラと奮発して買ったといっていた大口径の500ミリ望遠レンズを携えて、今も相変わらずせかせかと足早に鳥の姿を追う君の姿が目には浮かびます。

魚をじっと待つ釣り人になぜかせっかちな人が多いと聞いたことがあります。カメラの狙いをつけた枝にいつ止まるかわからない鳥を待つのも案外せっかちな君に向いていたのかもしれないね。そういう私も虫を追う写真マニア。そんなにせっかちとも思っていないのですがどうでしょうか。

長い間、青梅医師会長をはじめ医師会の要職を勤めながら趣味のお付き合いにもいろいろと面倒を見ていただき感謝しています。

天に召されても相変わらずカメラを手に鳥を追っているのでしょうかね。医師会の写真展も今年の秋で40回目を迎えます。閑があったらそちらの世界からも是非のぞいてみて下さい。お待ちしております。たまには鳥の作品が出るかも知れませんが勘弁して下さいね。

ご冥福をお祈りいたします。

〈H18年12月3日 御逝去〉

青梅市健康センター 坂本保己

(編集部注) 鳥種の同定については勸山階鳥類研究所 平岡 考様のご協力によるものです。



ゴイサギ 幼鳥 (*Nycticorax nycticorax*)



ホオジロ (*Emberiza cioides*)



ゴイサギ 成鳥 (*Nycticorax nycticorax*)



メジロ (*Zosterops japonicus*)

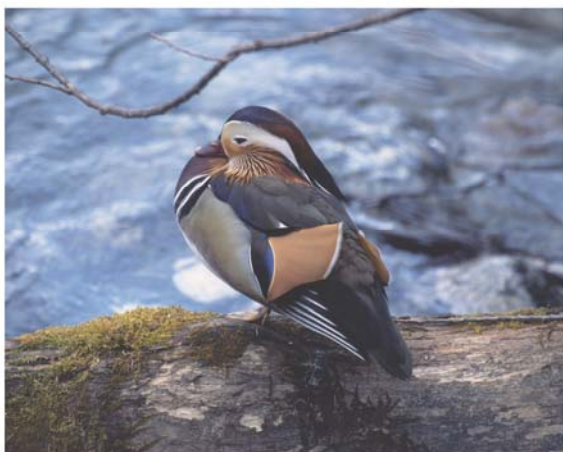




アカコッコ (*Turdus celaenops*)



カワセミ (*Alcedo atthis*)



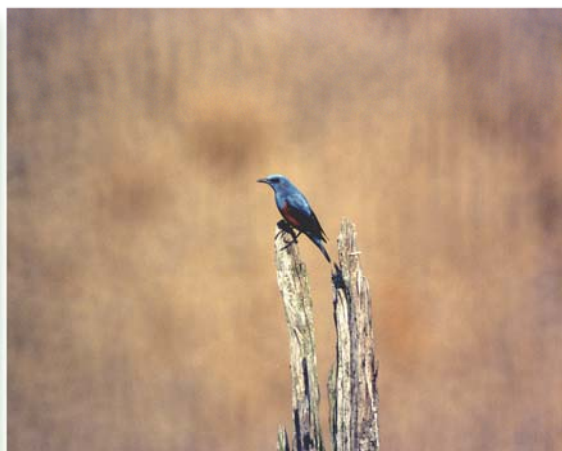
オシドリ 雄 (*Aix galericulata*)



コゲラ (*Dendrocopos kizuki*)



ルリビタキ 雄 (*Tarsiger cyanurus*)



イソヒヨドリ 雄 (*Monticola solitarius*)

青梅市立総合病院地域医療連携室からのお知らせとお願い

内科系において一部診療科の FAX 受診予約枠新設のため、FAX 紹介状への 受診日時・時間の
ご記入、患者様の携帯番号のご記入、予約電話について

平素、先生方におかれましては、地域医療連携にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。当院への FAX 紹介患者数は年々増加し、平成 17 年度は 3847 人、全紹介の約 1/3 となり、4 年間で倍増しました。

現在、内科系の一部の診療科では、FAX 紹介患者様枠（30～60 分くらい）を設けて、その予約時間帯に FAX 紹介患者様を診察しております。これにより、予約外来がスムーズに進むために、“通常”の予約患者様の待ち時間が短縮する “FAX 紹介患者様自身も初めての外来受診が何時ごろなのかかわかるために安心できる。”などの効果がでております。2 月から循環器科（11 時 30 分からの 30 分間）、4 月からは内分泌代謝科（10 時から 30 分間）も、FAX 予約枠を開始いたします。

先生方には、日頃の診療でご多忙のことと存じますが、FAX 予約を設けている以下の各診療科への FAX 紹介の詳細について、ご理解ならびにご配慮をよろしくお願いいたします。

* 下記診療科にご紹介いただく場合は、FAX 受診予約申込書の受診予定日の右隣に **曜日と時間**

例：リウマチ膠原病科の場合 2 月 14 日 **(水) 10 時 30 分** ←

を、ご記入ください。（FAX 受診の予約時間は各科で異なりますので、ご注意ください。）

もし、予定枠が定員になりました場合には、連携室から、ご紹介の先生と患者様に、変更の日時・時間をご連絡いたします。

1) 神経内科 月～金曜日 12 時～13 時 2 人まで。（但し、水曜日は 13 時～14 時）

2) 消化器科（野口医師）月、木曜日 14 時から 4 人まで。（急ぐ場合には制限なし）
（細井医師）金曜日 11 時 30 分から 2 人。

3) リウマチ膠原病科（長坂医師）月、水、金曜日 10 時 30 分～11 時 2 人まで。

4) 循環器科（2 診）（2 月から）月～金曜日 11 時 30 分～12 時 3 人（6 人）まで。

：循環器科では、診察前にレントゲン、心電図検査がありますので、10 時 45 分ころまでに
受診するようご説明ください。

5) 内分泌代謝科（4 月から）月～金曜日 10 時～10 時 30 分 3 人くらいまで。

* 患者様への連絡に関して：日中は患者様の自宅電話番号では連絡ができないことが多いため、患者様の自宅番号のほかに、できれば**携帯番号**のご記入もお願いいたします。

* 患者様を診察なさっている時に、当院の受診予約時間、予約状況を確認したい場合、連携室に、受診希望日時をご連絡いただければ、受診日時・時間を、すぐにお返事いたします。その時間を患者様にお伝えいただき、FAX はこれまで通り、**前日の 16 時まで**に、お送りください。

ご不明な点につきましては、連携室（内線 5327 または、院内 PHS 6220）藤田、小山までご連絡をお願いいたします。

青梅市立総合病院 TEL（代表）0428-22-3191

FAX 0428-24-5126

伝言板

① 第20回 青梅心電図勉強会のお知らせ

日 時：平成19年2月7日(水) 午後7:30～
場 所：青梅市立総合病院 南棟3F講堂
*青梅地区会以外の会員の参加も歓迎いたします

② 第6回 西多摩消化器疾患カンファレンス

日 時：平成19年2月16日(金) 午後7:30～
場 所：青梅市立総合病院 南棟3階講堂
症例検討 司会：大河原森本医院 森本 晋先生
青梅市立総合病院 野口 修先生
【症例1】「血小板減少に対し脾摘後、インターフェロンを投与することのできたC型肝炎の1例」
症例提示：野本 正嗣先生(青梅市：野本医院)
経過報告：芦澤由紀子先生(青梅市立総合病院 消化器科)
【症例2】「TAEの効果が不十分のため肝切除を行った一例」
症例提示：高橋 英先生(青梅市立総合病院 消化器科)
経過報告：杉崎勝好先生(青梅市立総合病院 外科)

講演：「C型肝炎治療の最近の話題」
山梨大学医学部 第1内科 教授 榎本信幸先生

③ 第14回西多摩三師会主催 市民公開講座のご案内

日 時：平成19年2月17日(土) 午後2時～4時
場 所：羽村市コミュニティセンター 3F
講 師：高田 明和先生
演 題「脳を元気にする生き方」
費 用：無料
受 講：先着順
問い合わせ：電話 0428-21-4551(薬剤師会)
主催：西多摩三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)
後援：あきる野市、青梅市、羽村市、福生市、奥多摩町、日の出町、瑞穂町、檜原村

④ 西多摩癌診療地域連携セミナー

日 時：平成19年2月20日(火) 午後7時
場 所：青梅市立総合病院講堂
演 題：「乳がんの診断と治療(仮題)」
講 師：順天堂大学医学部乳腺科助教授 齋藤光江先生

⑤ 市民健康講座のお知らせ

日 時：平成19年2月24日（土）午後2時～

場 所：羽村市コミュニティセンター

演題・講師：①しなやかに育つ、輝いて育つ

公立福生病院小児科 五月女友美子先生

②“こころ”の病について ーうつ病を中心にー

青梅市立総合病院精神科 山口 一先生

⑥ 第5回西多摩医師会臨床報告会のご案内 及び演題募集について

第5回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。つきましては、日常の診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：平成19年3月8日（木）午後7時30分から

開催場所：青梅市立総合病院 3階講堂

演 題 募 集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。

演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発 表 者：西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただくことがあります。

発表内容：症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間：1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領：発表内容を400字程度にまとめてFAXしてください。

発表者の抄録は、医師会会報に記載します。

尚、スライド・OHP等使用を明記して下さい。

募集期間：平成18年12月20日（水）～平成19年2月28日（水）

⑦『平成18年度 かかりつけ医認知症対応力向上研修会』のご案内

高齢者が日頃から受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診断の知識・技術や家族からの話や悩みを聞く姿勢を習得するための研修を実施することにより、認知症の発生初期から状況に応じて、医療と介護とが一体になった認知症患者への支援体制を図ることを目的として、本研修会を開催いたします。

ご多忙とは存じますが、是非ご出席下さいませようお願い申し上げます。
尚、当研修全過程修了者には東京都知事より修了証書を交付いたします。

記

- (1) 平成19年3月15日（木）午後7時00分～10時00分
青梅市立総合病院 セミナー室

認知症について

- 1) 「基礎知識」（ビデオ放映を含む）
- 2) 「連携」、その他

講師：認知症サポート医・東京都医師会理事
玉木 一弘 先生

市町村 介護担当課長（予定）

- (2) 平成19年3月20日（火）午後7時00分～10時00分
青梅市立総合病院 南棟3階講堂

- 1) 「診断」
- 2) 「治療とケア」

講師：秋川病院 植田 宏樹 先生

⑧ パネルディスカッションのお知らせ

日 時：平成19年3月28日（水）午後7時30分～

場 所：公立阿伎留医療センター 地下1階講堂

テーマ：脳血管障害

演題・講師：(1) 脳血管障害の診断 ー症候から最新の検査までー
公立福生病院 脳神経外科 小山 英樹 先生

(2) 脳梗塞の治療 ーTPAを中心にー
公立阿伎留医療センター 脳神経外科 伊藤 宣行 先生

(3) 脳血管障害の慢性期治療と管理 ー地域医療連携を含めてー
青梅市立総合病院 神経内科 高橋 真冬 先生

(4) ディスカッション



各部だより

学術部
Information

《学術講演会要旨 1》

日時：平成 18 年 11 月 29 日（水）

場所：青梅市立総合病院 南棟 3 階講堂

演題：「イベントフリーの老後を目指して」

講師：東京大学医学部附属病院 検査部 講師 下澤 達雄 先生

高血圧症や生活習慣病の治療目的は、血圧値、血糖値、コレステロール値や体重などを是正することではなく、疾患により発症する腎臓、心臓、血管といった臓器障害を予防し、イベントフリーで老後を迎えることにある。最近までに高血圧、高脂血症（高中性脂肪血症、低 HDL コレステロール血症）、肥満、糖代謝異常の合併症は、虚血性心疾患をはじめとする動脈硬化性疾患を相乗的に増加させることが、多くの疫学研究から明らかにされている。そして、これらが危険因子となる疾患の共通の背景因子として腹部肥満とインスリン抵抗性が関与し、multiple risk factor 症候群、インスリン抵抗性症候群、腹部肥満症候群など多くの名称で呼ばれてきたが、最近ではメタボリックシンドロームが一般的な呼称となった。メタボリックシンドロームの治療においては、内臓肥満を基盤としていることから生活習慣の修正（食事療法、運動療法）の有用性が徐々に証明されたことから生活習慣の修正が治療の基本方針に含まれている。生活習慣の修正は高血圧を予防できる可能性が示されているだけでなく、降圧効果も証明されている。高血圧に脂質代謝異常、糖尿病など心血管病の危険因子が加わっている場合にはこれらは特に重要な治療法となる。JSH 2004 の高血圧ガイドラインでは修正項目に食塩量の制限、野菜・果物の積極的摂取とコレステロール・飽和脂肪酸の摂取制限、適正体重の維持、アルコール摂取量の制限、運動、禁煙などがありこれらを複合的に実施することが推奨されている。生活習慣の改善で降圧が十分に得られない場合、降圧薬による治療が必要になるが、ガイドラインでは降圧薬治療の主な効果は血圧低下によるとの記載があり、降圧目標は高齢者で 140/90mmHg 未満、若年・中年で 130/85mmHg 未満、糖尿病・腎障害患者では 130/80mmHg 未満とより厳格な血圧コントロールが求められている。また降圧薬の中でもレニンアンジオテンシン抑制薬は優れた降圧効果に加え、幅広い適応を持った薬剤として推奨されているおり、これらの薬剤は大規模臨床試験から降圧以外にも臓器保護という観点からより有効である可能性が示されている。先ごろ開催された ISH2006 Fukuoka でもレニンアンジオテンシン抑制薬が日本人においても有用であることが多数の大規模臨床試験によって示された。

本講演会ではイベントフリーの老後を迎えるために、高血圧治療の位置付けやレニンアンジオテンシン抑制薬の有用性について私の症例と大規模臨床試験を中心に紹介した。特

にアンジオテンシン受容体拮抗薬はアンジオテンシン変換酵素阻害剤とはことなり、脳梗塞の予防、インスリン抵抗性発症予防効果を持つこと、また、長期に使用するとその効果が明らかとなってくることをご紹介した。そのメカニズムの可能性として、アルドステロンの関与、アンジオテンシン受容体 type2 の関与などをご紹介した。

《学術講演会要旨 2》

日時：平成 19 年 1 月 26 日（金）

場所：青梅市立総合病院 南棟 3 階講堂

演題：「メタボリックシンドロームの治療戦略」

講師：久留米大学医学部内科学 心臓・血管内科 講師 山岸 昌一 先生

【はじめに】

2002 年度の厚生労働省の糖尿病実態調査において、我が国には予備軍まで含め推定 1,620 万人の糖尿病患者がいることが報告された。糖尿病患者の多くが心血管系疾患で亡くなっている現状を考えれば、糖尿病は内分泌疾患であるとともに心血管病であるともいえる。

【糖尿病の診断】

新しい糖尿病の診断基準では、空腹時血糖 110mg/dl 未満、随時血糖 140mg/dl 未満を正常型と定め、空腹時血糖 126mg/dl 以上か随時血糖あるいはブドウ糖負荷試験 2 時間血糖が 200mg/dl 以上を糖尿病型としている。このいずれにも属さない場合が境界型となる。境界型には、空腹時血糖が高いタイプ (IFG) と食後血糖が高いタイプ (IGT) の 2 つのタイプが存在し、近年後者のタイプでは心血管系イベントのリスクが高いことが明らかにされてきている。したがって、より早期から軽症糖尿病に対して積極的に治療していくことが大切である。

【糖尿病治療について】

糖尿病治療の基本は、食事・運動療法である。生活習慣を改善することにより、糖尿病の発症を予防できることが見い出されてきている。また、食事・運動療法を 3 ヶ月実施しても血糖コントロールが十分でない場合 (HbA1c 6.5% 未満・空腹時血糖 130mg/dl、食後血糖 180mg/dl 未満をクリアできない場合) には、積極的に薬物療法の実施が必要である。軽症糖尿病の治療には、ナテグリニド (スターシスなどの速効短時間作用型インスリン分泌促進剤) や糖の吸収を遅延させる働きのある α -グルコシダーゼ阻害剤 (グルコバイなど) を選択すべきであろう。グルコバイを用いて食後高血糖に介入することにより、将来の心血管系イベントを抑えられることが報告されている。

【糖尿病合併高血圧の診断と治療】

血圧のコントロールを抜きにして糖尿病血管合併症のコントロールは成り立たないといっても過言ではない。UKPDS において、糖尿病患者の収縮期血圧を 10mmHg 下げると心血管系イベントが約 10～15% 程度抑えられることが報告されている。高血圧治療においても、基本は生活習慣の改善にある。また、左室肥大や狭心症の有無、腎障害の程度に応じた降圧療法が必要だといえる。

【薬剤選択】

糖尿病合併高血圧においては、130/80mmHg 未満を降圧目標値とする。長時間作用型の Ca 拮抗薬や腎症の発症、進展を抑制しうる RAS 系の阻害薬（ACE 阻害薬や ARB）を一次選択薬として、厳格に血圧をコントロールすることが大切である。最近、ARB の一つであるテルミサルタン（ミカルディス）が早朝の高血圧を抑えるだけでなく、PPAR-gamma の partial agonist として働き糖・脂質代謝を改善しうるということが明らかにされた。テルミサルタンは、糖尿病合併高血圧患者の治療に有用な薬剤といえる。

【最後に】

軽症糖尿病の患者を診療する場合には、個々の患者のリスクファクターを正確に捉え、糖尿病・高血圧・高脂血症などを集学的に治療することが必要であろう。



広報部 Information



今回は、本の町・神田にあり、本好きから高い支持を得ている東京堂書店のベストセラーをチェックしてみました。

1. 夢からの手紙：辻原 登 新潮社（「BOOK」データベースより）

遠い故郷に残してある妻から、江戸詰の夫の元へ届いた一通の手紙が、夫の遭遇した不思議な事件を言い当てていたという表題作「夢からの手紙」。突然失踪した新妻を夫が探索するうち、彼女の哀切な過去が浮かび上がってくる「菊人形異聞」など全六篇。

2. 映画が目にしみる：小林 信彦 文藝春秋（「BOOK」データベースより）

『中日新聞』連載の映画コラムを100本紹介。邦画と洋画、黒沢明の「大国と地獄」やイーストウッドの「父親たちの星条旗」など新旧関係なく、ときには舞台やドラマ、本の話も交えながら解説。DVD情報も満載。

3. 小説 古今亭志ん朝：金原亭 伯楽 本阿弥書店（「BOOK」データベースより）

親友、金原亭伯楽が書き下ろす志ん朝さんの知られざる恋と死。笑い涙の純愛人情噺のオチは。

4. まいにち薔薇いろ：田辺 聖子 集英社（「BOOK」データベースより）

あたたかい作品世界と楽天的で楽しい生き方。田辺聖子全集から生まれた万華鏡のようなスペシャルブックガイド。

5. よろしく青空：中野 翠 毎日新聞（「BOOK」データベースより）

格差社会もなんのその、さまざまなジャンルを横断し、この世の「ヘン」に湯を入れる。2005

年11月から2006年11月までの話題を満載した痛快コラム集。『サンデー毎日』掲載を中心にまとめる。

6. アメリカの日本改造計画：関岡 英之 イースト・プレス（「BOOK」データベースより）

格差社会、郵政民営化、ホリエモン・村上ファンド問題、耐震偽装問題、牛肉輸入問題、消費者金融問題……「失われた10年」に起こった数々の問題の原因は、すべてアメリカの「年次改革要望書」が発端だった。

『拒否できない日本』（文春新書）で「年次改革要望書」の存在を明らかにし、対米追従政治に警鐘を鳴らした関岡英之氏を中心とした20人の豪華執筆陣が、知られざる日米関係のタブーに挑む！

7. 泡坂妻夫 マジックの世界：泡坂 妻夫 東京堂出版（「BOOK」データベースより）

ミステリー作家・泡坂妻夫、奇術研究者・厚川昌男の2つの顔の人物が、自身が創作した膨大な量のオリジナルマジックの中から選び抜いたテクニカルな作品集。

8. 言葉のなかに風景が立ち上がる：川本 三郎 新潮社（「BOOK」データベースより）

ふと目を奪われ、吸い込まれる「風景」。そのなかに本当の「私」が存在する。江国香織、堀江敏幸、丸山健二、いしいしんじ、水村美苗ら現代作家の描く「風景」から読み解く、私たちの生きる場所と心象。

9. 構造改革の真実：竹中 平蔵 日本経済新聞（「BOOK」データベースより）

大学教授から国務大臣に就任した著者の大臣日誌に基づきながら、不良債権処理、郵政民営化など、政策決定のプロセスについて実体験を踏まえ議論。小泉構造改革の5年半を総括するとともに、著者なりの問題提起をする。

10. 小泉官邸秘録：飯島 勲 日本経済新聞社（「BOOK」データベースより）

前首席総理秘書官が初めて明かす、決断と改革の真実。

◆ お勧めサイトコーナー

1. ケアネット・ドットコム <http://www.carenet.com/>

プライマリ、ケアを支援する総合的なサイト。症例検討・医療関係ニュース・ブログ・医学書や医学DVDの販売も行っている。

2. 一休.com <http://www.ikyuu.com/>

誰もが一度は泊ってみたかった高級ホテル、高級旅館がほとんど簡単に予約でき、しかもその料金は、割安に設定されている。学会の宿泊・旅行の予約などに便利です。

3. ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

自由に利用できるオンライン百科事典。つねに更新されており、最近の医療問題のことなども記載されています。

（文責：宮下吉弘）

同好会短信

ゴルフ部だより

田村皮フ科 田村啓彦



去る12月23日天皇誕生日に立川国際カントリー倶楽部に於て恒例の医師会コンペがアンダーハンディキャップのストロークプレーにて開催されました。

エルニーニョの影響か、温暖微風の言い訳無用のゴルフ日和でしたが、コースは前回と同じ起伏の激しいアベレージ泣かせの奥多摩コースで、更にどういう訳か当日は減法グリーンが硬く早く、このためアプローチは止まらず、ファーストパットは大オーバーで3パットが続出し、なかには5パットで轟沈した会員もいらしたようです。このように多く

がスコアを崩すなか、今回は守りのゴルフを止め、攻めのゴルフに徹した江本会員が1人異次元のゴルフを展開し、インでは3バーディ、2ボギー、アウトでは3バーディ、1ボギー、1ダブルボギーで、トータル6バーディのグロス71と当クラブ始めて以来初のアンダーパーでの驚異のベスグロ優勝でした。

今回は3月25日(日)立川国際カントリー倶楽部草花コースにて開催致します。奮って御参加下さい。

ゴルフ部創設以来の中心メンバーでゴルフをこよなく愛された故川崎健一郎先生のご冥福を部員一同衷心よりお祈り申し上げます。



順位	氏名	イン	アウト	グロス	ハンディ	ネット	
優勝	江本 浩	35	36	71	3	68	ドラコン賞×2、ベスグロ賞
準優勝	笹本 良信	46	46	92	15	77	
3位	田坂 哲哉	49	45	94	15	79	
4位	西村 律子	53	52	105	30	75	小波賞
5位	三井 理	37	45	82	5	77	ニアピン賞×2
6位	松原 貞一	48	50	98	19	79	
7位	青山 彰	41	49	90	10	80	
8位	横田 卓史	48	49	97	17	80	ニアピン賞
9位	横地喜代美	54	53	107	27	80	小波賞
10位	河内 泰彦	43	53	96	13	83	ドラコン賞
11位	田村 啓彦	44	51	95	11	84	ドラコン賞
12位	宮川 栄次	49	49	98	13	85	
13位	田辺 秀郎	49	50	99	13	86	
14位	渥美 浩	56	45	101	13	88	大波賞
B. B	水野 英彰	60	65	125	36	89	
B. M	岩尾 芳郎	57	54	111	13	98	ニアピン賞

地区だより

青梅地区 平成19年 青梅市医師会新年会開催

さる1月12日、河辺駅南口の「ひのき茶屋」で恒例の新年会が催された。挨拶、乾杯に先立ち、昨年お亡くなりになられた市原診療所；市原靖先生、後藤眼科；後藤伸先生、細谷内科；細谷純一郎先生のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げた。中野会長の新年の挨拶の後、石井好明先生の音頭で乾杯の挨拶が行われ、宴が始まった。参加人数が31名とは青梅市医師会の総会出席人数を凌いだかもしれない（自慢には全くなならないが）。今回は激論？すべき議題もないためか、終始和気あいあいの酒宴であった。今年の新年会では12月に開業されたばかりの、あさひ整形外科の三浦洋靖先生〔新町3丁目：整形外科〕、なごみクリニックの行定京子先生〔河辺町8丁目：内科〕の両先生にも参加いただき自己紹介をお願いした。両先生の医師会での今後のご活躍を大いに期待したい。こじんまりした部屋のせいもあり、先生方の移動も盛んで、あちら



こちらで笑い声や杯をかさね合うグラスの音が絶え間なかった。終盤に野村都議員、井上衆院議員のご挨拶があり、激動の年ともいえる2007年の今後の政治、経済、社会など、わけても医療改革については医師会員の理解と協力が必要とのお話であった。宴の縮めの挨拶は足立先生の張りのある声でしていただき予定を少しオーバーした10時過ぎにお開きとなった。（文責：鹿児島武志）



あさひ整形外科クリニック 三浦洋靖先生



なごみクリニック 行定京子先生

福生地区 福生市医師会新年会だより

1月14日晴天の下、朝から貸切バスで呑みながら東京観光で盛り上がり、江戸東京博物館見学、大相撲観戦、新年会は河豚料理と、内容の濃い親睦旅行、新年会であり、大変楽しく、参加した家族も大喜びでした。企画、担当をしていただきました、森先生、辻先生、田坂先生、どうも有難うございました。ただ

ひとつ残念だったことは、参加された先生の中で若手の先生が西村先生お一人だけだったということです。地区会の親睦旅行、新年会がこのようでは非常に淋しく、企画していただいた先生にも大変申し訳なく思います。今回は、多くの先生方の参加を希望いたします。（文責：河内 泰彦）

理事会報告

★ Information

12月移動理事会 平成18年12月26日(火) レストラン オステリア・チ.

[出席者：真鍋・小机・横田・新井・鹿児島・鈴木・中野・西成田・渡辺(良)・松原]

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告(年末懇親会・功労賞表彰式)

2. 平成18年度クリスマス会収支報告(12.11)

A会員40名、B会員23名 総計135名出席。

3. 各部報告(各担当理事)

総務部：○西多摩地域脳卒中医療連携事業アンケート実施の報告

(177件)(看護ステーション・老健施設・老人福祉施設・居宅介護支援事業所)

○事故報告受領済(あきる台病院及び東福生むさしの台クリニック)

○総務会(12.18)、会館建設準備委員会よりの報告など

学術部：学術講演会

○「メタボリックシンドロームの治療戦略」

講師：久留米大学講師 山岸昌一先生(青梅市立総合病院 1.26)

○「膠原病と肺疾患」

講師：都立駒込病院部長 猪熊茂子先生(公立阿伎留医療センター 1.22)

介護保険：「かかりつけ医認知症対応力向上研修会」

3/15 青梅市立総合病院セミナー室 pm19時～

講師：玉木理事、市町村介護課長他

テキスト認知症の基礎知識、連携編

3/20 青梅市立総合病院 講堂 pm19時～

講師：植田宏樹先生(秋川病院)

テキスト認知症の診断編・治療とケア編

全過程修了者に東京都知事より修了書

病院部：○介護フォーラム開催(3.23)(青梅市民会館)

基調講演「慢性期医療の方向性」安藤高朗先生(都医師会理事)

○講演会(病院部)に関するアンケート実施

産業医：第8回西多摩地区労働安全衛生大会出席報告(12.1)

4. 地区会よりの報告(各地区理事)

青 梅：1/12 新年会。

福 生：なし。

羽 村：なし。

あきる野：なし。

瑞 穂：なし。

日の出：なし。

5. その他

なし。

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ―― 承認 ――

A会員：木下廣明（医社）真愛会介護老人保健施設あかしの里

B会員：公立福生病院1名

（参考）退会会員：行定京子（檜原診療所・開業）、細谷純一郎（細谷内科医院・死去）

新井 孝（青梅坂本病院）、三浦洋靖（高木病院・開業）

川崎健一郎（大聖病院・死去）、平 篤（坂本第二病院）

2. 新年1回目の定例理事会は特別の協議事項なき場合、恒例により休会とする ―― 承認 ――

3. 青梅市立第2小学校学校医の推薦について（細谷会員後任の件）（18年度は欠員のままで可） ―― 承認 ――

4. 西多摩労働保険事務組合の事務処理の再委託禁止指導のため鬼木社会保険労務士事務所と委託契約していますが、これを鬼木社労士（個人）と嘱託契約とする。報酬その他は従来金額とする。 ―― 承認 ――

【3】協議事項

1. 来年度各部の事業計画案・予算など1月の定例理事会までに案を提出する。

2. 東福生むさしの台クリニックの経過顛末の事故報告提出の件

（プレス発表は行わない）

3. 西多摩地域産業保健センター事業に係る実地監査19年1月31日（平成13年度～17年度の5期分）及び同事業の随意契約の見直しについて（平成19年度より随意契約から一般競争入札に変更になり、これに伴い競争資格申請するについての承認について）

4. その他

○新年賀詞交歓会福祉担当の変更について（中野青梅市医師会長）

○第27回日本医学会総会登録推進について

19.4.6～4.8まで、大阪国際会議場特別割引登録料30,000円（19.1.31）

○年末年始の医師会館休館について

12月29日（金）～1月4日（木） 但し、28日（木）は午前12時まで。

1月定例理事会

平成19年1月23日（火）

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・鹿児島・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・渡辺（肇）・松原・足立〕

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告

(1) 医事紛争事件概況について：被害件数（150件以上）被害総額も増加の傾向あり

(2) 平成20年度より始まる健診、保健指導の在り方について：今後共協議の予定

- (3) 集团的個別指導結果及びコンタクトレンズ診療眼科の指導についての伝達
H 18.12.18 (月) に実施、指導対象医療機関 206 件、うち 175 機関が出席。

2. 各部報告 (各担当理事)

総務部：平成 19 年新年賀詞交歓会収支報告

医師会員 38 名出席した。更に多くの会員の出席が望まれる (会長談)

学術部：臨床報告会研究演題募集中 (別紙) (2 月 28 日まで)

案内詳細は伝言板に記載。

3. 地区会よりの報告 (各地区理事)

青 梅：1 / 12 新年会 (新入会員 行定、三浦会員参加)

1 / 26 三師会新年会

福 生：1 / 14 新年会・施行会実施

羽 村：1 / 18 学術講演会 (青梅市立総合病院 名和先生)

1 / 25 幹事会、急患センターの今後の運営について討議予定

1 / 30 地区会

あきる野：1 / 15 地区会 generic 薬品のあきる野での使用状況報告

瑞 穂：なし。

日の出：なし。

4. その他

なし。

【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

A 会員：坂元 龍 (坂元医院)

B 会員：青梅坂本病院 1 名 公立福生病院 1 名

(参考) 退会会員：巽 正一 (池谷医院)

2. 平成 19 年度青梅市立小中学校医の推薦について —— 承認 ——

3. 平成 19 年度羽村市公立小中学校医の推薦について —— 承認 ——

4. 平成 19 年度あきる野市立保育園嘱託医 (内科医) の推薦について —— 承認 ——

5. 在宅難病委員会委員の委嘱について

(細谷委員の補充) 野本会員に委嘱。

【3】協議事項

1. 平成 19 年度事業計画案の提出について

(参考資料として 18 年度各部の事業計画を配付)

2. 平成 19 年度保険整備指導委員会・診療報酬請求書の提出日について

後日送付予定。

3. 東京都医師会代議員及び予備代議員の選挙委託について

平成19年3月8日に告示予定。

4. 西多摩地区医療懇話会の議題について

1. 健診、保健指導につき医師会として今年の要望を伝える。各地区の情報収集が必要なので、各地区長は医師会に連絡してほしい。

2. 癌健診の有料化について討議予定

5. その他

○ 会館建設準備委員会（横田委員長）を開催予定とする。

1. （会館建設予定の）土地は一般公募で。

2. 最近できた他地区の新医師会館を見学予定。

会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 医療保険の手引
- 産業医研修会（日本大学 3/17・18）
- " （すみだ医師会 1/28）
- " （葛飾区医師会 2/3）
- " （東京大学医師会 3/10）
- " （日本橋医師会 3/24）
- " （大森医師会 2/10）
- " （帝京大学医師会 2/17）
- 東京都医師会認知症サポーター養成講座開催について
- 平成18年度ターミナル・ケア人材育成研修会開催について
- 平成18年東京都医師会主治医研修会の開催について
- 第6回西多摩消化器カンファレンス症例募集のお知らせ
- 第14回西多摩三師会主催市民公開講座
- 「脳を元気にする生き方」—認知症は防げます
- 西多摩医師会主催 市民健康講座「心の健康を見直してみませんか」
- 学術講演会（1/22・1/26・1/30）
- かかりつけ医認知症対応力向上研修会開催について

医師会の動き

医療機関数 209 病院 29
 医院・診療所 180
 会員数 481 A会員 201
 B会員 280

会議

1月19日 在宅難病調整委員会
 22日 会報編集委員会
 23日 定例理事会
 30日 西多摩地域脳卒中医療連携検討会

講演会・その他

1月9日 保険指導整備委員会
 10日 法律相談
 20日 西多摩医師会新年賀詞交歓会

22日 学術講演会
 演題：膠原病と肺病変—原疾患に伴うものと薬剤性・感染性肺病変—
 演者：東京都立駒込病院
 アレルギー膠原病科
 部長 猪熊 茂子 先生
 26日 学術講演会
 演題：メタボリックシンドロームの治療戦略
 演者：久留米大学医学部
 心臓・血管内科
 講師 山岸 昌一 先生

表紙のことば



『東沢大橋』

八ヶ岳横断道を小淵沢へ向う途中に川俣溪谷にかかる東沢大橋です。目に鮮やかな朱塗りの橋で全長90メートルです。清泉寮のドライブインからの景色で、四季折々の変化を楽しめる所で、特に紅葉はすばらしいものがあります。大自然の中の赤い橋は冬には暖かさを感じるどころです。後方は八ヶ岳連峰があり主峰は赤岳です。

笹本隆夫

お知らせ

事務局より お知らせ

平成19年3月(2月診療分)の

保険請求書類提出

3月8日(木)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談ください。

- | | |
|----------------------------|--|
| ◎相談日 | 2月は14日(水)
3月は14日(水)の予定です。 |
| ◎場所 | 西多摩医師会館和室 |
| ◎内容 | 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。 |
| ◎相談料 | 無料(但し相談を超える場合は別途) |
| ◎申込方法 | 事前に医師会事務局迄お申込み願います。 |
| (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。 | |

社団法人 西多摩医師会

平成19年2月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL. 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 鹿兒島武志

宮下吉弘 野村中夫 近藤之暢 渡辺良友 江本 浩
道又正達 古川朋靖 鈴木寿和 馬場眞澄 石井好明

印刷所 マスダ印刷 TEL. 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

レセコンから今、多機能電子カルテ時代へ。



「Medical Station」は診療・検査から会計まで、医療現場をまるごとサポート。医療スタッフの煩雑な作業を軽減するだけでなく、インフォームドコンセントや待ち時間の短縮など質の高いサービスを実現。

検査結果は暗号化したインターネット・メールで、依頼日の翌朝にはシステムに自動的に取り込まれます。検査センターならではの充実した検査機能のほかに、レセコン機能による診療費計算の自動化、さらには経営分析にも手軽に活用でき、医療の現場をトータルにサポートします。



画期的な新技術により「非改ざん証明」を初めて実現しました

(株)NTTデータとの提携により、厚生省の医療情報電子化3基準のうち最も実現が難しかった「真正性の確保」を日本で初めて技術的に可能にしました。過去のカルテ情報に不正な改変のないことをNTTデータのSecureSeal™センタ(電子文書証明センタ)が厳密に第三者的に証明します。

ハイパフォーマンス電子カルテシステム

Medical Station

お問い合わせ・資料請求先
株式会社ビー・エム・エル
医療情報システム部
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
TEL: 03-3350-0392
e-mail: ms-sales@bml.co.jp
http://www.bml.co.jp/

開発元
株式会社メリッツ
戦略システム開発部
〒350-1101 川越市約場1361-1
TEL: 049-233-7074



価値創造合併 多摩に「たましん」 新生誕生。

〈たましん〉〈たいへい〉〈はちしん〉は平成18年1月10日合併し、「多摩信用金庫」としてスタートしました。これからも、「お客さまの幸せづくり」を使命に地域とともに歩んでまいります。

(新社章コンセプト) たましんのダイナミックに広がりゆく姿を頭文字「T」に象徴しています。力強く上昇するカーブは、未来への確実な成長と発展・信頼性を表現しており、地域をつまみこむやさしさと、柔軟かつ躍動的な印象を併せ持ったデザインです。たましんの親近感と熱意を象徴するレッド、多摩の自然を象徴するブルーとグリーンを使用します。

多摩信用金庫
http://www.tamashin.jp